

神経内科

(スタッフ)

部長 : 麻生 泰弘 (2020. 4月から)
: 法化 陽一 (2020. 3月まで)
副部長 : 花岡 拓哉 (2020. 1月まで)
: 麻生 泰弘 (2020. 3月まで)
主任医師 : 佐藤 龍一 (2020. 4月から)
: 中道 淳仁 (2020. 4月から)
: 角 華織
: 高畑 克徳 (2020. 3月まで)
後期研修医 : 内田 大達 (2020. 4月から)
: 上杉 聡平 (2020. 3月まで)

3月末に法化部長が退官され、4月から後任として麻生が部長に就任いたしました。花岡副部長は2月から大分大学医学部へ異動し、上杉後期研修医も4月から同大学へ異動しました。4月からは麻生、佐藤、角、中道、内田の5人体制で診療に従事しました。

(診療実績)

外来患者数は新患880名、再来患者9,444名でした(表1)。この数年間と比較して受診患者数が減少している原因には、3月以降の新型コロナウイルス感染の拡大の影響が伺えます。

入院患者総数は454人でした。疾患別の内訳(表2)をみると脳血管障害が最多で、変性疾患、髄膜炎・脳炎・脳症が続きます。てんかん患者数も多いことが分かります。

(研修・教育)

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、残念ながら今年は医学生のカリキュラークラッシュを行うことができませんでした。病院見学には、6月10日に大嶋諒太さん(大分大学6年生)、平山将司さん(熊本大学既卒)、7月16日に岩田美咲さん(大分大学6年生)、重見千暁さん(福岡大学6年生)、7月16日に野嶋紗帆さん(大分大学6年生)が当科を見学されました。卒後臨床研修では、園田卓司医師(2)が2月・3月、内野真亜子医師(2)が4月、豊田那智医師(1)が4月・5月・6月、上野愛実医師(2)と藤川一朗医師(2)が5月、園田佳歩医師(2)が6月、後藤未央医師(2)が6月・7月、馬場晶子医師(1)が7月・8月、卯野明大医師(2)が8月・9月、梶原大輝医師(1)と杉本未来医師(2)が9月・10月、時永優希医師(2)が10月、山中茉莉夢医師(2)が11月、山原茉莉医師(2)が11月・12月、丸山莉果医師(1)が12月に、当科で研修を受けました(表3)。また、県立看護科学大学からは老年看護学を修めるために2名の看護学生が研修されました。

(今後の方向性)

2020年は新型コロナウイルスの感染拡大による影響を大きく受けました。再来患者診療においては、病状の安定した患者に対しては電話再診制度を活用し、感染拡大の防止に務めました。また、地域の医療機関との連携を意識し、適切な医療を提供できるように紹介・逆紹介などの診療連携を強化しました。2021年がどのような状況になるか不明ですが、2020年に得た教訓と対策に学び、コロナ禍での最良の診療ができるよう努めていきます。

今年、脳神経外科のご協力をいただき、当院は日本脳卒中学会認定の一次脳卒中センターに認定されました。この認定は、地域の医療機関や救急隊からの要請に対して、24時間体制で脳卒中患者を受け入れ、急性期脳卒中診療を開始できる施設であることを示すものです。これからの県内における脳卒中診療における当院のより一層の貢献に期待します。

さらに、12月から当院でも「ドパミントランスポートシンチグラフィ(DAT Scan)」が撮影可能になりました。DAT Scanはパーキンソン症候群の鑑別に有用な検査法です。新しい画像検査が導入されるのは数十年ぶりでした。この検査を活用し、より正確なパーキンソン病関連疾患の診断を行っていきます。

4月から当院にも言語聴覚士(ST)が1名採用されました。当科疾患では構音障害や嚥下障害、言語障害をきたすことが多く、専門的な嚥下機能評価・訓練が早期から行えることは大変重要なことと考えます。

てんかん診療においては、救急部と精神医療センターのご協力により、今年から簡易的なビデオ脳波モニタリングも可能となり、診断の精度が向上しました。新規抗てんかん薬の採用もいただき、治療の選択肢が増えていきます。診断精度・治療効果の向上が期待できます。

外来診療では、新患外来の事前予約枠を2枠/日から6枠/日に増設いたしました。待ち時間が短縮されたことで、初診患者の時間的・体力的負担が軽減されているようです。当科には神経疾患の診療経験が豊富な看護師と医療秘書が常駐しており、専門的に患者診療の介入を継続しております。未曾有の超高齢化による神経疾患の増加に対応するためには、医療スタッフを中心とした地域医療連携が欠かせません。そのことを常に意識し、今後とも最良の地域貢献ができるように努力していきます。

(文責：麻生泰弘)

表1 当科における外来・入院患者数の推移

単位：人

		2016	2017	2018	2019	2020
外来患者数	新患	1,365	1,234	1,222	1,156	880
	再来	11,790	11,534	11,467	11,877	9,444
入院患者数	実数	454	521	485	485	454
	延べ数	10,651	9,744	10,739	11,595	8,869

表2 2020年 当科疾患別入院患者数実績 総計 454名 ()内は2019年の数値
単位：人

入院患者総数 454 (530)	
脳脊髄血管障害	132 (135)
脳梗塞	123
一過性脳虚血発作	4
脳出血・クモ膜下出血	1
脊髄梗塞	1
PRES/RCVS	3
髄膜炎・脳炎・脳症	47 (62)
髄膜炎・髄膜炎	13
脳炎	16
脳症	18
脱髄性疾患	19 (15)
視神経脊髄炎	7
多発性硬化症	10
急性横断性脊髄炎	2
変性疾患	64 (83)
パーキンソン病	25
パーキンソン症候群	1
レビー小体型認知症	2
アルツハイマー型認知症	1
進行性核上性麻痺	5
多系統萎縮症	4
脊髄小脳変性症	12
ALS/運動ニューロン疾患	11
その他	3
脊髄・脊椎疾患	5 (17)
脊髄症	2
HTLV-1 関連脊髄症	3
末梢神経障害	29 (43)
慢性炎症性脱髄性多発神経炎	7
Guillain-Barre 症候群 / Miller Fisher 症候群	15
外転神経障害	1
顔面神経障害	1
多発神経障害	4
単神経障害	1
筋疾患	32 (28)
皮膚筋炎 / 多発筋炎	8
横紋筋融解症	3
重症筋無力症	20
その他	1
その他	126 (141)
てんかん	40
急性薬物中毒	4
アルコール性精神障害	4
悪性新生物	3
サルコイドーシス	3
正常圧水頭症	2
COVID-19	1
神経痛性筋委縮症	1
その他	68

表3 2020年 学生・研修医の実習状況

医学生 (見学)	5名	
看護学生	2名	
初期臨床研修医	1年次	5名
	2年次	11名